11/11

まちかど
歴史探訪

金刀比羅神社
（新潟市中央区）

邸宅内で船の安全願う

新潟市中央区附船町3の「金刀比羅神社」は住宅街にひっそりとたたずむ。港町として栄えた「下町」と呼ばれるこの地域で、海上の安全を祈願する「鈴木のこんぴら様」の名で親しまれてきた。

江戸時代の1751（宝暦元）年、現在の本町通13でしょうゆ醸造業を営んでいた鈴木家が邸宅内に神殿を建立した。当時の当主が、港の不備で出入りする船の遭難が続いていたことを憂えたからだと伝わる。現在の当主鈴木勇吉さん(74)＝東区＝は「町内の繁栄も願ったようだ」と話す。

住民や船員、漁師らからの信仰は厚く、盛大な祭りも行われたという。1857（安政4）年に、当時の新潟奉行「根岸九郎兵衛」が書いて奉納したとされる「金毘羅神社」の書が飾られている。

1874（明治7）年には附船町3の現在の場所に遷座。この場所で鈴木家は、信濃川を挟んで対岸の山の下を結ぶ渡し船の運営もしていたという。新潟シティガイドの渡辺博さん(71)は下町を案内するときには神社にも立ち寄る。

「分かりづらい場所だが、港町の歴史を感じるところだ」と話す。

勇吉さんの父節美氏は、新潟まつり大民謡流しに貢献した。節美氏は民謡流しで踊る「新潟甚句」の歌詞や節、振り付けを完成させ、長年神殿の隣の部屋で民謡教室を開いていた。境内には節美氏の胸像がある。

勇吉さんは月に3、4回は神社に通い、草取りなどの整備をする。昔は周辺の鉄工所の経営者らが氏子で寄付が集まったというが、そういう人たちも亡くなり、氏子はだんだん少なくなっていった。勇吉さんは「先祖から伝わったものを自分の代でなくしたくない」と思いを語るが、「年金暮らしでは修繕が難しい。私が今後を決めなければ」と考えている。

金刀比羅神社の前に立つ鈴木勇吉さん（右）と渡辺博さん＝新潟市中央区附船町３

〈メモ〉附船町の金刀比羅神社は入船町六丁目バス停から徒歩約２分。